



**ビオトープ・サロン 生物多様性保全のための取組み**

ニュース019に引き続き片山氏より、徳島県の生物多様性活動、第二弾をご提供いただきました。（編集担当）

**【 徳島県で取り組む生物多様性活動その2 】**

寄稿：片山博之（徳島県自然環境課自然共生担当）

**徳島県での生物多様性地域戦略の取組み**

野生生物の保護については、徳島県では平成13年の徳島版レッドデータブックの発行や「とくしまビオトーププラン」を平成14年に策定し、さらに「徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例」などで実施しました。しかし、国が制定した「生物多様性基本法」中では、地方公共団体による生物多様性地域戦略の策定が努力目標として位置づけられ、「生物多様性国家戦略2010」では、地方公共団体が、それぞれの地域特性に応じて生物多様性戦略をつくるのが不可欠とされています。また、2010年は名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されることになりました。

このことなどから、現在6県で策定されている生物多様性地域戦略を各県とも取り組んでいく機運が高まっていくことが予想されます。

そのため、徳島県でも生物多様性地域戦略を策定することが決まりました。それでは、生物多様性地域戦略の策定事項とはどのようなものでしょうか？環境省では実際に盛り込む策定事項を次のように定めています。

**1. 策定事項等**

生物多様性地域戦略の**対象区域**

生物多様性の保全及び持続可能利用に関する**目標**

生物多様性の保全及び持続可能な利用に関し、**総合的かつ計画的に講ずべき施策**

その他の必要な事項

では、上に示す対象区域とは、どれくらいの範囲が示されているのでしょうか？

一般的には行政区域（都道府県界、市町村）を単位として設定。

ただし、河川の流域や山地などのまとまった区域や野生生物、人、ものの移動を介した生物多様性への影響に配慮した区域なども含まれます。

次に策定事項ではないのですが、対象期間も設定される場合が多いです。その場合は

環境基本計画と期間を合わせる場合

100年先の長期間とする場合

策定から一定期間（10年後、50年後）とする場合 などです。

**2. 生物多様性地域戦略の策定方針について**

地域戦略の策定は、地方公共団体の責務となっておりますが、自治体だけで樹立するものではありません。生物多様性国家戦略2010の5つの基本的視点の中で、**連携と協働**という項目があります。そこで、徳島県でも地域戦略の策定にあたっては、自治体間や市町村、企業、民間団体、住民、研究機関等が連携、協働して取り組んでいくこととします。

このことに関して、徳島県では、環境団体・研究機関の約20団体が参加した「生物多様性ととくしま会議」が本年6月に設立され、今後の目標としては 生物多様性の重要性を普及浸透させる ワークショップの開催などにより地域での問題点の抽出 研修会などによる意識の向上 等を行っていく予定です。

**3. とくしまビオトーププランとの違いについて**

平成14年度に策定されたとくしまビオトーププランには、生物多様性につながるビオトープネットワークの創出方法や開発や事業を行う際のミティゲーション（回避・低減・代償）などの具体的手法を出した優れた冊子であり、しかしながら、このビオトーププランは定性的な目標を示したものであり、生物多様性の状態を示した目標を決めたものではありませんでした。

新たに策定する徳島県版生物多様性地域戦略には、定量的な指標を盛り込むことが望ましいと思われれます。

最終的に実現すべき生物多様性の状態を定量的に示すこと。

（例としては、 地域にある希少種の個体群密度を 頭/km<sup>2</sup>に増やすや、 地域の外来物生物の個体数を50%減少させるなど）

事業量を示す目標を定める。

（例としては、希少野生生物保護区の設定を県下 箇所では ha 行う）

**4. 具体的なスケジュール**

この徳島県版生物多様性地域戦略は、豊かな徳島の自然とそこに生きる生物の恵みを後世に伝えていくものでなくてはなりません。そのためには、十分な体制づくりと県民が生物多様性を十分に認知することが必要であります。

そこで徳島県では、平成22年度に組織や必要な事業費等を確保する準備期間。平成23年度に県民への周知、ビオトープネットワークづくりのための課題の抽出と民間団体や県民の参画による目標設定の準備期間。平成24年度には、意見の集約と具体的なプランの策定期間と位置づけて、策定してまいりたいと思っておりますので、御協力とご支援をお願いしたいと思います。

**ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!**

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより  
**無断転載禁止**：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 記者：編集担当

**【生態学：正答・解説は次号で紹介】**

問020：土壌に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい。

1. 土壌を大切にすることと、生態系を守るとはあまり関係がない。
2. 砂漠化の原因としては、気候的な要因のほか、家畜の過放牧や樹木の過剰伐採といった人為的要因も大きい。
3. 土壌は、貴金属や有機化合物、ダイオキシンなどの有害物質で汚染されていても、汚染状態から短期間で回復する能力を持っている。
4. 土壌をコンクリートやアスファルトで覆っても、土壌が地域の水循環系に果たす役割は、基本的に地下で保持される。
5. 農地については、一般的に土壌浸食を心配する必要はない。

**前号019の解説**

地場産の間伐材を使用した法面保護、地域住民に対する施工方法の事前周知と意見集約(地域の合意形成)、施工時の環境破壊の最小化、落差工を設けない等。

施工部門であるため、工法の工夫がなく、一般論のみを記述しているものは不合格。

最近の受験者は、環境NPO構成員、国・地方公務員、外郭団体や地方自治体職員、企業退職者が増加傾向です。

**ビオトープ・ナビ Q&A コーナー**

記者：坪内強、櫻本幸実(会員)

**【Q: さん】**

公園などでハトに餌をやる人をよく見かけます。でも餌やりは良くないと聞きますが、なぜですか?子どもにも分かりやすい説明はないですか?同じく、コイへの餌やりも教えてください。

**【A: 自然保護の第一歩は野生生物に餌を与えないこと!】**

ハトやコイに限らず、庭に野鳥を寄せようと餌台を置くことも、自然にとっては良くない行為です。

ハトの場合は、餌をやる 高い栄養状態になる 繁殖力が増す・生存率が増す 都市には天敵(猛禽類)がない 個体数が増える 過密状態になる 棲み処が人間の生活場に近くなる 排泄物分解などの自然の仕組みが無い 環境が悪化する 人間との摩擦(糞害・健康被害・農作物被害等)が増える・・・と言ったようなことかと思えます。ハトの餌やりは、ハトが増えすぎて生態系のバランスを崩すという問題よりも、増えすぎたドバトの糞や羽毛が汚い、健康に悪い、車や建物が傷むなど、対人間との問題が大きいかもしれませんね。増えすぎたハトがベランダなどに住み付くと本当に困ってしまいます。

ハトは可愛くて餌などをやると懐いて和みますが、増えすぎると害鳥にもなりうる事をお子さまに話してあげてください。(コイについては、次号でお答えします。)

**ビオトープ・ナビ 雑学コーナー**

記者：櫻本幸実(会員)

**【増える都市型生物と自然環境中に増える愛玩動物】**

近年、と言ってもずいぶん前からですが、ドバトやカラスが都市の迷惑動物になっています。また、クマネズミ(史前帰化動物)やタヌキも餌(食品系ゴミ)の豊富な都市環境に順応しているようです。

一方、自然の川や山には、魚類・両生類・爬虫類・昆虫・鳥類・哺乳類を問わず、様々な愛玩動物や園芸植物をはじめ、輸入の愛玩生物が定着し、その場所(ビオトープ)固有の生態系の質的低下や破壊の危機を招いています。

平和のシンボル「ハト」ですが、数が増えると厄介者に変貌してしまいます(ハトに限りませんが)。

都市でよく見かけるのは「ドバト」で外来種の「カワラバト」が再び野生化したものだそうです。カワラバトは、ヨーロッパ・中央アジア・北アメリカ・北アフリカなどの乾燥地帯が本来の生息地でした。食用・伝令用に輸入し家禽化され、伝書鳩やレース鳩、そして愛玩用に品種改良されました。それらが野生化して都市で個体数を増やしています。(被害者は彼らで加害者は人間です)

工場面積が増えると出現数上がり、森林面積が増すと低下するという調査報告があります。これは、巣を作る場所や天敵(捕食者)の関係かと思えます。ちなみに日本には「アオバト」「キジバト」が生息しますが、なじみのあるキジバトは雑木林が生息地(ビオトープ)です。

**ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記! ~ブログ-ビオトープ気延の里~**

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

**【自然観察5年生 ~自然観察をしよう~ 6月7日 曇り】**



てるてるぼうずが効いたのか、午前中の雨がうそのように止んで雲間から太陽さえも。石井小学校5年生が、「気延の里」へやってきました。今回は探鳥、生物の葉っぱ調べ、プロジェクト・ワイルドというゲームを3組に分かれてしました。

それぞれの先生方は、探鳥は三宅先生、笠井先生、葉っぱは稲飯先生、PWのゲームは櫻本先生。お仕事を休んで協力していただきました。感謝、感謝です。いつも思うことですが、子供たちの目が生き生きと輝き、本当に楽しそうです。子供たちのためであれば、少々のご都合は都合つけようと思えます。

**今月の“たからもの”**

みなさん、左の写真は何に見えますか?  
 波打ち際の海岸を少し歩いただけでたくさんのお星様に出会いました。

**編集後記**

徳島のビッグイベント、阿波踊りはいかがだったでしょうか?今年も見に行けませんでした。来年こそ!今から意気込んでいます。ニュースの感想、ご寄稿、お待ちしております。編集：河野登子  
 【E-mail: tokotoko.utani@gmail.com URL: http://biotopetokushima.yu-yake.com】